

## 平成 2 8 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 2 8 年 4 月～平成 2 9 年 3 月

### 1. 学校概要

学校名 豊中市立新田小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ( )

所在地 〒560-0085  
大阪府豊中市上新田 2-19-1

E-mail t\_shindensho@city.toyonaka.osaka.jp

Website http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/sinden/

児童生徒数 男子 366 名 女子 315 名 合計 681 名  
 児童・生徒の年齢 7 歳～12 歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☒ 世界遺産
- ☒ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☒ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☒ エネルギー
- ☒ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☐ そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 【各学年の取組み】

学 年	教科等	カテゴリー	内 容
1 年	生活	環境 国際理解 食育 人権	自然環境に親しむ ・ サツマイモを育て、収穫する一連の活動を体験 ・ 校外学習で拾ったどんぐりやまつぼっくりでおもちゃ作り 色々な国の文化に触れる ・ 英語 ・ 各国の挨拶 ・ 給食の話 ・ バランスのよいおやつの食べ方を考えよう。 ・ なかまづくり「ひとりぼっちのライオン」 ・ 手話「パレード」
2 年	生活	環境 食育 国際理解 伝統文化 平和	自然環境に親しむ ・ 種から野菜を育てる（ミニトマト、大根）・土づくり（枯葉あつめ） ・ 牛乳パックから再生紙（はがきづくり）をする。 野菜の栄養 ・ 野菜について学習し、苦手な野菜に挑戦する。 色々な国の文化に触れる ・ 外国の遊び、言語、音楽 こま体験、たこあげ、お皿づくり 「そして、トンキーもしんだ」
3 年	理科 総合 社会 総合 総合	環境 国際理解 地域遺産 人権 人権	自然環境と生態 ・ 箕面昆虫館、箕面大滝の見学 ・ モンシロチョウ、アゲハチョウ、カイコを育てる ・ ホウセンカ、ヒマワリ、ダイズ、マリーゴールド、オクラなどを育てる 外国語体験活動（モロッコの文化） 校区探検・七輪体験・洗濯板体験・天神社での聞き取り学習 誕生学（大切な命） 障がいのある人とのかかわりを考える「〇〇であるく」
4 年	総合・理科 社会 総合	環境 地域遺産 国際理解	ゴミ処理・私たちの水・緑のカーテン（ゴーヤの栽培）・土づくり（発酵1） 校区の歴史 外国語体験活動
5 年	社会 理科 国語 総合 総合	環境 環境 環境・伝統文化 国際理解 人権	国土の環境を守る（くらしが環境に与える影響・公害・森林・自然を守る） 流れる水のはたらき（川とわたしたちの生活のかかわり） 森林のおくりもの 和の文化を受け継ぐ 外国語体験活動 平和「沖縄の文化」
6 年	総合 社会 家庭 総合 総合	平和 平和 環境 国際理解 人権	アフガンの現状・ヒロシマ平和公園での聞き取り 第二次世界大戦と戦後の日本の歩み 生活排水・資源の再利用をとおして循環型社会を考える ＊ピオトープ 土づくり（発酵2） 外国語体験活動（モンゴル・韓国・フランス・フィリピン） 共生「みて・かんじて・かんがえて その一歩をふみだそう」
4 年～6 年 全学年	総合 総合 特活	平和 情報・人権 食育	広島を訪問して（事前・事後学習会） SNS のリスク（スマホの正しい使い方） 給食（好き嫌いしないでバランスよく食べよう）

## 各学年における環境学習の取組み

学年	教科等	内容
1 年	生活	<p>《自然環境に親しむ》</p> <p>① サツマイモを育てる。 収穫し、調理（焼く・吹かす）して味わう。</p> <p>② 校外学習で拾った松ぼっくりで クリスマスツリーづくり。</p>
2 年	生活	<p>《腐葉土を利用して野菜作り》</p> <p>① 落ち葉拾い。</p> <p>② 野菜づくり ⇒調理を施して味わい収穫を喜ぶ ベビーリーフ・ミニトマトでサラダ 大根・・・葉は炒め物、白い部分は、漬物</p>
3 年	理科	<p>《自然環境と生態》</p> <p>① 箕面昆虫館の見学</p> <p>② モンシロチョウ・アゲハチョウをそだてる</p> <p>③ ホウセンカ・ヒマワリ・ダイズ・マリーゴールド・オクラ・シロナを育てる</p> <p>④ 蚕を育て観察。</p>
4 年	理科・ 社会 総合	<p>《くらしと環境》</p> <p>○できることから始めよう</p> <p>《土づくり》</p> <p>○2年生と連携した土づくり</p>
5 年	社会・ 理科	<p>《米づくり》</p> <p>○新田ブランドの米をつくる。</p> <p>《国土の環境を守る》</p> <p>①くらしが環境に与える影響</p> <p>② 公害の学習</p> <p>③ 森林を育てる 自然を守る取り組み</p> <p>《流れる水のはたらき》</p> <p>・川とわたしたちの生活のかかわり</p>





## 4 年 テーマ『 暮らしと環境～できることから始めよう～ 』

### ○教科名等

理科（ゴーヤの栽培、緑のカーテン作り）（琵琶湖博物館見学）  
社会・総合（ゴミと下水の処理について）

### ○実施時期

4 月～11 月

### ○学習のねらいと指導のポイント

- ・植物の成長と環境とのかかわりについて考える。
- ・ゴミ、水、自然、などから身の回りの環境について知り、課題を見つける。
- ・環境を守り、健康的な暮らしのために、自分たちにできることを考え行動する。
- ・友だちと協力して調べたり、まとめたり、発表したりする。

### ○取り組みと児童の反応

#### ①緑のカーテンづくり（豊中緑のカーテンプロジェクト）

豊中緑のカーテンプロジェクトの方からゴーヤの植え方や世話のしかたなどを詳しく指導していただいた。地植えとプランターに分け、クラスごとに土づくりや苗植えなどの仕事を分担して全員で作業した。水やり当番を決めて、毎日世話をし成長する様子を観察した。

教室の窓のそばにゴーヤの葉による陰をつくり、観察を続けながら夏を気持ちよく過ごす工夫と環境へ与えるよい影響を考えた。実際に実も家庭において味わった。また、ゴーヤ茶づくりにも取り組んだ。

#### ②ゴミと下水の処理から、環境問題を考える（豊中市環境部環境センター環境業務課）

日常生活からでるゴミの処理がどのように行われているのか、パッカー車のしくみとクリーンランドを見学し、ゴミの行方、処理の仕方、処理と環境との間にある課題について考えた。処理をする際の環境への配慮、自分たちや家庭で気をつけるべきこと、ゴミを燃やす時に出る熱の効率的な利用、リサイクル・リユースなどの 3 つの R についてなど学び、自分たちにはまず何ができるのか、できることを見つけた。見学をもとに見たこと・調べたこと・分かったこと・自分たちにできることなどを新聞としてまとめた。

また、原田下水処理場を訪れ、下水の処理は、多くの段階を経て、最後は消毒して川に流す仕組みになっているという仕組みを学習した。また、家庭から流される水が環境に及ぼすことを知り、環境を守るためには、まず自分たちから、ということ思った。

水については、水道局の方に出前授業も行っていただいた。子どもたちは、実験をしながら水道水の作り方を学習し、沈殿実験やろ過実験を通して濁っていた水が透明になる様子を見て、驚くと同時にとても興味を示していた。10 月には、環境学習の締めくくりとして、琵琶湖博物館を訪れ、さらに関心を広げていった。琵琶湖の水と微生物との関係を学習し、水環境について考えを深めた。

## (6年) テーマ【学校の中で自然とふれあう～ビオトープ製作～】

### 《教科》

- ・理科

### 《学習のねらい》

- ・ビオトープを活用して自然とふれあう。
- ・生態系について知り、つながりを考える。

### 《学習の流れ》

実施時期 おもに5月～11月

### 《準備》

- ① 川から野草・水草を運ぶ。田んぼから土を運ぶ。  
校庭の土を土嚢袋に入れて池の底に沈める。
- ② 川や田んぼから取ったメダカやエビを放す。

### 《成果（児童・生徒の感想や反応 等）》

- ・休み時間にたくさんの子どもたちが生き物の様子を見に行っている。
- ・子どもたちの新たな興味を生んでいる。
- ・生き物について積極的に調べている。
- ・調べたことを、説明やカードにして発信している。
- ・牛ガエルが生息するなど自然に生物の生息が見られる。

### 《今後の発展》

- ・ICTを活用し、クラスや飼育委員会の活動をニュースにまとめて校内・校外に発信する。

### 《児童による発信》





## その他 防災学習等の取組み

### 過去の地震災害に学び防災意識を育てる

#### 1 主旨

グローバル社会において、持続可能な社会の構築とその担い手育成の取組みの一環とする。

#### 2. 開始

平成 29 年（2017 年）1 月 13 日～1 月 20 日

#### 3. 対象

豊中市立新田小学校全児童及び教職員。

#### 4. 目的

- ・地震発生のメカニズムと地域の地形・気候の様子などから、起こりやすい災害や過去の地震災害について理解し、安全な行動に結びつくための判断に生かすことができる。また、減災や災害保に役立つものについて理解する。
- ・地震発生時における危険を認識し、日頃から学校内外での防災対策に関わり、状況に応じて自ら考え安全な行動ができるようにするとともに、他者への安全にも気配りができる。
- ・過去に発生した大地震から先人の経験に学び、対処行動をとるための判断に生かすことができる。
- ・自他の生命を尊重し、災害発生時や事後に被災者の役に立つことができる。
- ・関西地震観測研究協議会設置の地震計測定器設置校であることを知るとともにその役割を理解する。

#### 5. 手法

○防災週間を設定

- ・朝日新聞震災報道写真の展示
- ・関西地震観測研究協議会の学識経験者（京都大学准教授）によるデジタル校内ＴＶ放送での出前授業
- ・地震計の作成 実験 活用

#### 5. 計画

時期	対象	場所	活動時間	活動内容
1 月 13 日～20 日 *1 月 17 日 8:30～12:25	全児童 教職員等	各教室 放送室 理科室 ＰＣルーム	学級活動 理科	○校務分掌 生活指導部が計画立案 ○1 月 17 日全校朝会でミニ講話 ○ 116 年生「理科」地震計作製と実験 ○震災パネルの展示と鑑賞 ○振り返り

1 月 17 日（火）ＴＶ朝会

○防災週間において、阪神淡路大震災の日に地震のメカニズムと防災について学ぶ

- ・（全）学識経験者からミニ講話を聴く
- ・（全）本校に設置されている関西地震研究協議会の地震計の役割を知る
  - \*ＴＶ放送「未来に続くとびら」中継
  - \*各クラス２Ｈ 理科室 ＰＣ室
- ・（6）6 年生は理科学習で地震計を作製する

# ICTでアクティブラーナーを育てる

## 1 主旨

グローバル社会において、持続可能な社会の構築とその担い手育成の取組みの一環とする。

## 2. 開始

平成 28 年（2016 年）9 月

## 3. 対象

豊中市立新田小学校全児童及びフレンドシップスクール児童、教職員。

## 4. 目的

○児童会活動をととして、「伝える力」「聞く力」を育てる。

- ・ ESD の視点で校内外生活をみつめ、ニュース性のある出来事を「取材」「編集」「発信」という一連の活動を通じて情報処理力を身に付ける。
- ・ 全校児童は、学校内外の出来事を知り、自ら課題意識をもつ。

## 5. 手法

○新田子ども放送局「nineTV」から、放送委員会の児童を中心に各委員会児童が報道する。

ツール

- ・ 校内デジタル放送
- ・ PC 等情報機器
- ・ ライブオンTV会議システム
- ・ 各教室配置の大型TV

## 5. 計画

時期	対象	場所	活動時間	活動内容
通年	全児童 フレンドシップS 教職員等	学校 地域 放送室	特別活動	○毎月委員会活動で計画立案 ○情報収集、編集、ニュース原稿作成 ○ニュースとして発信 ○振り返り ○行動プラン



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ 宿泊行事を含む学校行事 ）

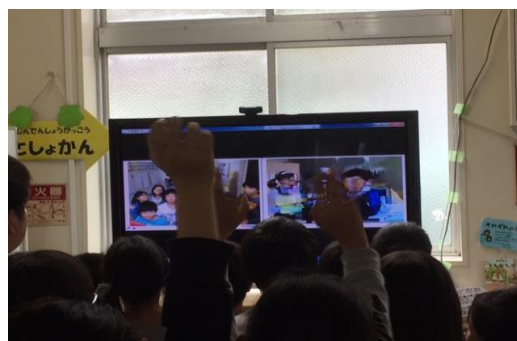
## 資料 1 交流



NZ地震  
フレンドシップ校へ「地球星歌  
（＊本校EDSテーマソング）  
を歌いエールを送る5年生



ハカで答えるハンマースプリ  
ングスSの子どもたち



毎週水曜日は本校、ニュージーランド、モンゴル 3 か国 3 校の交流タイム  
休憩時間に自由に交流を楽しむ子どもたち

## 豊中市立新田小学校で児童が校内の畑から全校放送の中継

校内の畑からタブレット端末を使って中継



豊中市立新田小学校（安家紀子校長、上新田）は12月16日、情報通信機器を使用して放送委員会の児童による校内での中継放送を行った。児童会の活動を通して「伝える力」や「聞く力」を育てようと、ICT（情報コミュニケーションテクノロジー）教育の一環として実施した。

畑で撮影した映像を、タブレット端末を使用して放送室の画面に映し出し、その映像をビデオカメラで写し、各教室にある大型テレビに映した。リポーターをした奥山颯之介さん（6年生）は「初めての生中継で少し緊張して早口になってしまいましたが、みんなに分かりやすく伝えるようにリポートしました。この経験を今後の授業や委員会活動に生かしたい」と話した。

新田小は、市が進める教育情報化推進事業のもと、平成2010年に端末を7台導入し、各教室には大型テレビを設置している。これらを使って、校内外のニュース性のある出来事取材や編集、発信の一連の活動を通じて情報処理能力を身に付けようと、放送委員会による中継の実施を始めた。放送委員会は、5年と6年の計6組のそれぞれ各4人で構成。普段は始業前や給食・掃除の時間に放送室から、音楽やその日のニュースを参考にした校内放送を実施している。

また新田小は平成25年からユネスコスクールに登録し、世界の子どもとテレビ会議システムを通じて意見の交換を行っている。システムを使用して毎週水曜日に、ニュージーランドやモンゴルの学校の児童と情報や体験を共有する機会を

設けている。

この日は放送委員会の奥山さん、西田有希さん（6年生）、した。奥山さんと西田さんが畑で育てているニンジンやダイコン、ブロッコリー、カリフラワーなどの生長の様子や栄養の豆知識など事前に調べた特性を紹介。その様子を、端末で撮影し、放送室を経由して全教室のテレビに5分間の中継を写した。

安家校長は「ネタ探しや調査、とりまとめ、原稿作成を自分たちで行い、課題も見つかったと思う。どうしたら相手に伝えるかを考えながらニュース性のある番組をつくってほしい」と話した。

2016.12.19

マチゴトから引用





## 豊中市立新田小学校で防災の出前授業

出前授業の様子



豊中市立新田小学校（安家紀子校長、上新田2）は1月17日、関西地震観測研究協議会から、新田小出身の後藤浩之さんら3人をきて、児童らが防災を学ぶ出前授業を行った。

22年前の阪神大震災が府内で最大の被害を受けたことから、児童らに改めて防災の意識を高めてもらおうと発生日に合わせて実施した。学校に設置された地震計測定器をタブレット端末で動画撮影して教室に放映しながら、後藤さんが地震への備えの大切さを話したほか、6年生が簡易な測定器を作製

したり、多目的室に展示された震災報道写真パネルを見学したりした。関優太さん（12歳）は「地震計測定器が学校にあることを知り、これまで以上に地震に備える大切さを感じた。学んだことを家に帰って家族に伝えたい」と話した。

協議会は関西圏における地震動の観測や記録の収集・保存などを行っており、地震が起きた後の対策など、人やまちの安全を守る研究に取り組んでいる。千里丘陵の地盤構造が比較的地震の影響を受けにくいことから、1994年に新田小1階の階段下にある部屋に測定器を設置した。府内で10か所のうちの1つ。

授業では、放送室からタブレット端末などを使って校内放送を実施。協議会のメンバー2人が校舎1階の階段下にある「未来へつづくとびら」と書かれた部屋から測定器があることを伝えた。その後、6年生が理科室で、磁石やアクリル樹脂の管などで簡易の測定器を作

製。測定器をノートパソコンに接続し、ビー玉を1個、10個、100個の順に机の

上に落として、地震の揺れの大きさを画面に映された波形の変動で確かめた。後藤さんは「地震計測定器がある数少ない学校ですので、地震について考え、備える意識を持つ機会にしてください」と児童に呼び掛けた。



マチゴトから引用

## 大阪)豊中の小学校で防災特別授業 地震計を作る

2017年1月18日 03時00分



地震計の揺れのデータをパソコンで確認する児童ら＝豊中市の新田小学校

豊中市立新田小学校(安家紀子校長)で17日、地震や防災について学ぶ授業があった。大学の研究者らでつくる関西地震観測研究協議会のメンバーが、テレビを通して地震の仕組みなどを解説し、6年生が理科の授業で地震計を作った。

関西地震観測研究協議会は各府県の小学校の敷地内など20カ所に地震計を設置し、揺れを観測している。新田小にも地震計が設置されているため、同小が協議会に授業を依頼した。

この日の授業は、京都大防災研究所の後藤浩之准教授が手がけた。児童は後藤准教授の指導を受けながら、磁石や導線、アクリルパイプなどを使った自作の地震計をパソコンとつないで実験した。机をたたいた時の揺れのデータが波線になってパソコンの画面に表示された。その後、阪神大震災の映像記録などを見た。6年生の木川華さん(12)は「地震のことはあまり考えていなかったけど、もっと知った方がいいと思った」と話した。

同校の多目的教室には、朝日新聞社が貸し出した東日本大震災や熊本地震の報道写真約70点が展示された。20日まで児童らに見学してもらうという。

朝日新聞から引用